

まごころだより

2022年 6月号

5月の初めに一人の利用者が亡くなりました。昼間独居の方で長く利用されていましたが、悪化が進み治療の甲斐も無く最期を迎えられました。ご家族は何度か帰宅後の相談をされてきましたが、考え方で親子であってもお互いの理解を得ることが難しかったようです。しかし、状態が悪くなってくると知らない顔をしている訳にもいけませんし、入院を勧めても本人は頑なに拒否をされていたようです。自宅では夜間に転倒を繰り返し、その音で起こされる事が多くなり気が休まらない日が続いたと言われます。半分あきらめの気持ちがあったところに例え昼間だけでもデイの利用を増やされてはどうか、その間は少しは安心してお勤めに集中できるのではないかと提案しました。もちろん本人もその方が安心だということで納得された上で利用回数を増やすことになりました。このような話はどこの事業所でもあることで特別な事ではありません。しかし家族と事業所が深く関わることで安心して結びつくことがありとても重要になってくると思うのです。全ての問題解決にならなくても少しは家族間の架け橋に役立つのであれば介護職に就いている者として嬉しい事です。この方が本当に満足されたかは分かりませんが、ご家族は今まで介護に関心がなかったが、職場でも結構たくさん介護で悩んでいる人がいることを知り、無関心だった自分が情けなく思った。親を亡くした事をきっかけに、家族だけに止まらず周りの人にも出来る限り介護への理解を深めて行きたいと仰っておられました。介護に携わる者として一人でも多く理解を得られる事はとても喜ばしいことだと感じています。

“日向ぼっこ”

暑くも無く寒くもない日が続き、閉じこもりがちだった気持ちを解放させる。そんな天候の日々に久し振りに散歩に出かけました。外の空気はやっぱり美味しい。いつもは感じなかった感覚が晴れの日には特別に思う。お喋りの内容も明るくていい顔になります。介護が必要な方は同時に行動も制限されています。少しでも自由を感じてもらえれば嬉しいことです。



”ヘアーカット”

何時からカットしてないのかしら。自分でもそろそろ何とかしなくてはと思っていたようです。他人から言われると何となく嫌で、気が付くとまとまりがつかなくなってしまったようです。ある日優しく勧められたのが良かったのか、すんなりと受け入れられました。

「やっぱり気持ちが良い。さっぱりしたわ。」との感想。又時期がきたらカットしましょうね。

“お昼寝”

今年から1年生になった子が放課後にやって来ると寝てしまうようになりました。就学前は寝てしまうことがなかったのに、学校に行くようになったら環境が変わったせいなのか、それまでの習慣が変わったせいなのか、子供なりに神経を使って疲れてしまうのでしょうか。慣れるまでこの状態が続くのではないかと親御さんも子供の気持ちをわかっておられるようです。

